

「いづな歴史ふれあい館のこれから」  
基本計画

令和5年5月

いづな歴史ふれあい館

## まえがき

本資料は、『いづな歴史ふれあい館』が新しい町の博物館として再生し、発展してゆくための基本計画である。飯綱町は長野県北部にある人口約1万人のどかな農村地帯で、2005年（平成17）に旧牟礼村と旧三水村の2村が合併し新しい町が誕生した。当館の前身は「むれ歴史ふれあい館」で、開設から数えて24年が経過し、館をとりまく環境や時代背景はすでに大きく変貌している。

2019年（令和元）11月に設置された「いづな歴史ふれあい館協議会（以後協議会と呼ぶ）」では、館の現状と課題、館のあるべき姿等について様々な検討がなされ、2022年（令和4）3月に『「基本構想」に向けての提言書』が町教育長と歴史ふれあい館館長に手渡された。それを受け、同年4月に『基本構想』がまとめられた。その「基本構想」をもとに、課題解決のための必要事項を地域住民とともに整理しとりまとめたのが、この「基本計画」である。

とりあげた課題は幅広く、すぐには解決が困難と思われる事項も含まれている。困難な課題については、優先度や財源に関する検討を重ねながら、日々の博物館活動の中で時間をかけて目標に近づいてゆくことも必要である。その際、博物館としての一貫性と継続性を保ちつつ、遠近大小さまざまな課題や目標に取り組んでゆくための“道しるべ”となるのが「基本計画」である。

構想から計画の策定にあたり、多くの方々に貴重なご意見やアイデアを賜った。かつて「むれ歴史ふれあい館」の建設に関わった中村芳人氏、小柳義男氏、寺嶋 渉氏や、アンケートに率直な意見や要望を寄せていただいた方々、そして真摯に検討と議論を重ねていただいた協議会委員の皆様に、深く感謝を申し上げます。

令和5年（2023）5月

いづな歴史ふれあい館

## 目次

### まえがき

本編	4
第1章 背景と位置づけ	4
1-1 本計画の背景と目的	4
1-2 上位計画との連関	4
1-3 町の博物館としてのあるべき姿	5
第2章 展示計画	6
2-1 既設展示の見直し計画	6
1階	6
2階	8
3階	10
第3章 博物館の普及・学習活動	11
3-1 多様な利用主体との交流・連携	11
3-2 博物館の活動計画の概要	12
第4章 付帯施設の環境整備と博物館機能の拡充	13
4-1 資料収集と収蔵・保存	13
4-2 収蔵品や歴史データ等の集約と情報提供	14
4-3 調査研究と普及活動	14
4-4 施設に関わる問題点と改修の方針	15
第5章 歴史ふれあい館のリニューアルに向けて	18
5-1 設計方針	18
5-2 改修経費の概算（参考）	18
資料編	19
資-1 計画の検討経過	19
資-2 令和4年特別展観覧者へのアンケート調査結果	20
＜参考資料＞	

## 第1章 背景と位置づけ

---

### 1-1 本計画の背景と目的（構想から計画へ）

いづな歴史ふれあい館は、前身の「むれ歴史ふれあい館」の開設（1998年）から24年が経過した。内外の社会環境が大きく変化する中、2005年（平成17）年には旧三水村と旧牟礼村の合併により、新たに飯綱町が誕生し、町の歴史・文化を紹介する博物館として、当館の名称も「いづな歴史ふれあい館」に改められた。しかし、町の誕生から17年が経過した今も展示の大半は旧施設のままである。町をテーマにした新たな展示を組み込み、時代の変化を見据えた博物館機能の強化が急務の課題となっている。

そのような背景の下、2019年（令和元年）11月から「いづな歴史ふれあい館協議会」による検討がすすめられ、協議会からの提言を受ける形で、2022年（令和4）4月に「いづな歴史ふれあい館のこれから 基本構想」がまとめられた。また、同年秋には特別展「飯綱町と水の恵み」を開催し、観覧に訪れた方々へのアンケートにより「歴史ふれあい館のこれから」について意見募集を行った。（アンケート結果は資料編に紹介する）。

本計画は、協議会等でいただいた様々な意見や提案、それらに基づく基本構想、個人から寄せられた意見や要望等をもとに、これからのいづな歴史ふれあい館のあるべき姿を提示し、その実現に向けてまとめられたものである。

### 1-2 上位計画との連関について

飯綱町の第2次総合計画（後期基本計画：令和4年度～8年度、令和3年12月策定）には以下の記載がある。

◆分野2「学び」

◆政策2「スポーツ活動の推進・文化芸術の創造と継承」

◆施策2「伝統文化の保存・継承」 において、

④自然や伝統文化の発信拠点・学習拠点として、歴史ふれあい館やアップルミュージアムの展示内容の充実やリニューアルによる機能強化を図ります。

本計画はその実現のために、具体的に必要となる事項を集約したものである。

### 1-3 町の博物館としてのあるべき姿

基本構想に掲げられた理念と目標を以下に示す。

#### <理念と目標>

『いいづな歴史ふれあい館』は、これまでの館の歩みを発展させるとともに、新しい町の博物館として、幅広い年齢層の町民と来訪者に愛される、町民のための施設であることを目指す。館は「町の自然・歴史・文化を知るための拠点として、町の過去・現在・未来を共に学び、語り合う場」となる。

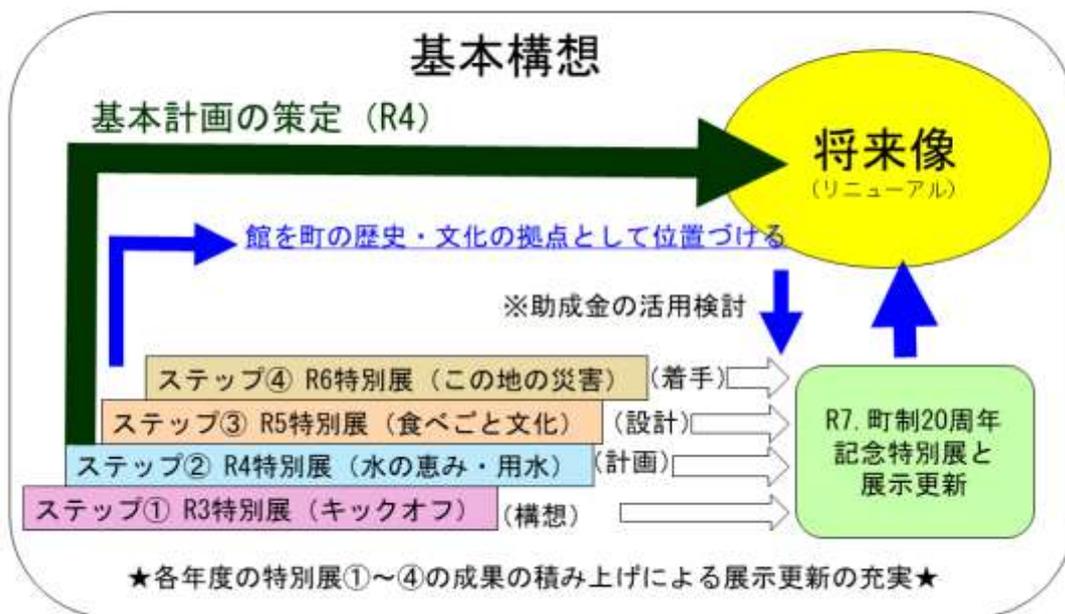


図1 令和4年春にまとめられた基本構想の全体像

図1における町全体をテーマとしたR3～R5年度の特別展は、R7の展示更新に活かされるための企画である。

## 第2章 展示計画

---

いづな歴史ふれあい館は、暮らしの延長にある「かけがえのない町の自然・歴史・文化の魅力」を、住民とともに探求し・学び・発信する「はっとする・ほっとする」展示をすすめます。

### 2-1 展示の改善・改修点

#### <既設の展示内容>

- ① 1階 牟礼宿の再現
- ② 2階 牟礼村の通史（原始～近現代）
- ③ 3階 地形模型（牟礼地区）と天体観測室

#### <新たに加える展示内容>

- ① 1階 飯綱町の文化財紹介（R3「文化財展」の内容を生かす）
- ② 2階 飯綱町の歴史探訪（重点化の例：「縄文」「戦国時代」）
- ③ 2階 飯綱町の用水と水資源（R4「水の恵み展」の内容を生かす）
- ④ 2階 豊かな里山実感⇒食べごと文化（R5特別展を生かす）
- ⑤ 2階 映像アーカイブス鑑賞コーナーの充実
- ⑥ 3階 “火山と地殻変動がみえる町”（自然史と山々；雄大な景観の秘密）

展示の核となるのは、以下の3点である。

- 古くからあったこの地の人の暮らし、それを可能にした理由は？
- 世界にたった一つの飯綱町、他にはない特性と魅力の発見
- 北信濃の里山の暮らしの豊かさの再確認と発信

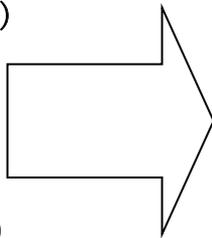
## 2-1 既設展示の見直し計画

### 1 階 ■ 北国街道の通る町 - “牟礼宿”の昔と今-

展示のテーマ:北国街道と牟礼宿 方針:既設展示を改善

<既存展示>

- からくりジオラマ (活かす)
- 牟礼宿の再現(活かす)
- 街道の説明(改善)
- 小ホール利用(改善)
- (・付け木展示→見直し)
- 受付まわり(改善)



<改良・補足・追加等>

- 宿場と街道に、現代の視点から光をあてる
- 街道成立の地理的な意味を深掘り
- 北国街道歩き(体験)のガイド機能をもたせる
- 素朴なジオラマの魅力を積極的にPR
- 町の文化財\*1案内(小ホール、QRコード活用)
- 小ホールの有効活用
- (自由スペース、学習、休憩、交流、インフォメーション提供の場に)



ほのぼのと楽しめる“からくりジオラマ”の再評価とPR

注 ※1: R3 特別展「飯綱町の文化財」展示内容を活用

## 2 階 ■ 北信濃 飯綱町の暮らしと文化

展示のテーマ: 里山の恵み(歴史の厚みと、環境)

方針: 既設展示の対象範囲を拡大し、新たな視点を盛り込む

<既存展示>

- ・落とし穴展示(活かす・情報更新)
- ・縄文の遺跡(町全域に拡充)
- ・古墳・須恵器産業(一部見直し)
- ・矢筒城(町全域に拡充)
- ・わら細工展示(見直し)
- ・飯縄信仰(情報の更新)
- ・鉄道と駅舎(見直し)
- ・村の発展(見直し)
- ・りんご展示(見直し)

<改良・補足・追加等>

- ・遺跡は語る(扱う範囲を町全域に拡充)  
☆身近に感じるための体験要素を盛り込む
- ・山城があった時代(扱う範囲を拡充)  
(髻山、芋川氏館、鼻見城山、若宮城山等)
- ・山城のガイド機能をもたせる(拡充)
- ・水の恵み<sup>※2</sup>(新規)  
☆開削等の歴史、測量技術等の体験要素
- ・映像鑑賞コーナーの設置(拡充)
- ・里山の暮らし(食文化<sup>※3</sup>)(新規)
- ・りんご展示はアップルミュージアムに集約

注 ※2: R4 特別展「飯綱町と水の恵み」展示内容を活用する

※3: R5 特別展「(仮)飯綱町と食べごと」展示内容を活用する

### ■ 一創起庵(企画展示室) ■

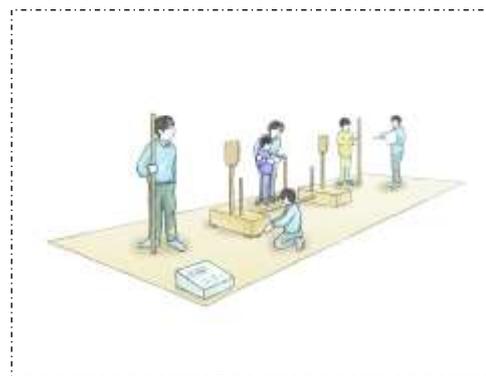
- ・町制 20 周年記念特別展を意識した改修(レイアウト等の改善)
- ・一般町民も企画を持ち込めるような使いやすい空間に
- ・映像コーナーの改修と映像メニューの拡充(機器の更新とメニューの改善)



A 壁面や引き出しを活用した展示（例）



B 土器の組み立て体験（例）



C 昔の測量技術体験（例）

図2 2階常設展示のイメージ（A, B, C）

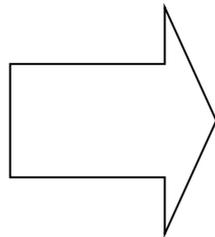
### 3階 ■ ふるさとの山々から、地球そして宇宙まで

展示テーマ:地球の変動がみえる町(飯縄・斑尾火山とフォッサマグナ)

方針:展望を楽しみ、くつろげる場を提供

<既存展示>

- ・展望展示(窓) (改善)
- ・地形模型(R5年度に改修予定)
- ・山の紹介(拡充)
- ・隕石(活用)
- ・天体観測室入口



<改良・補足・追加等>

- ・展望席の改修(くつろげる場に改善)
- ・地形模型の入れかえ(町全域をカバー)
- ・山の解説(野外展示とパネル)(拡充)
- ・登山・ハイキングガイド機能(拡充)
- ・国立公園解説(パネル拡充)
- ・地形→山→地球→隕石→星空→天体・宇宙



図3 3階展示室のイメージ

### 第3章 普及・学習活動

博物館にとって「展示」と「普及・学習活動」は車の両輪である。展示改修は、博物館機能の強化に連結させる。いづれも歴史ふれあい館の普及・学習活動において、キーワードとなるのは「交流」・「体験」・「共に楽しむ」の3点である。

【交流】：年配者と子どもなど、幅広い世代間、多様な主体間の交流をはかる

【体験】：一人一人が自らの体験を通して学ぶことができる仕掛けを組み込む

【楽しむ】：説明型展示から共感型展示に。

#### 3-1 多様な利用主体との交流と連携

新たな展示を通じた歴史探訪やおすすめスポットの紹介、ハイキングコースの案内など、町を楽しむガイド機能の充実をはかる。

町民と町外からの来訪者、学校・町・関係団体・行政等の多様な利用主体との交流をすすめるため、他施設<sup>※4</sup>との連携を強化しつつ、当施設が町の自然・歴史・文化とその魅力を知るための情報拠点となることを目指す。

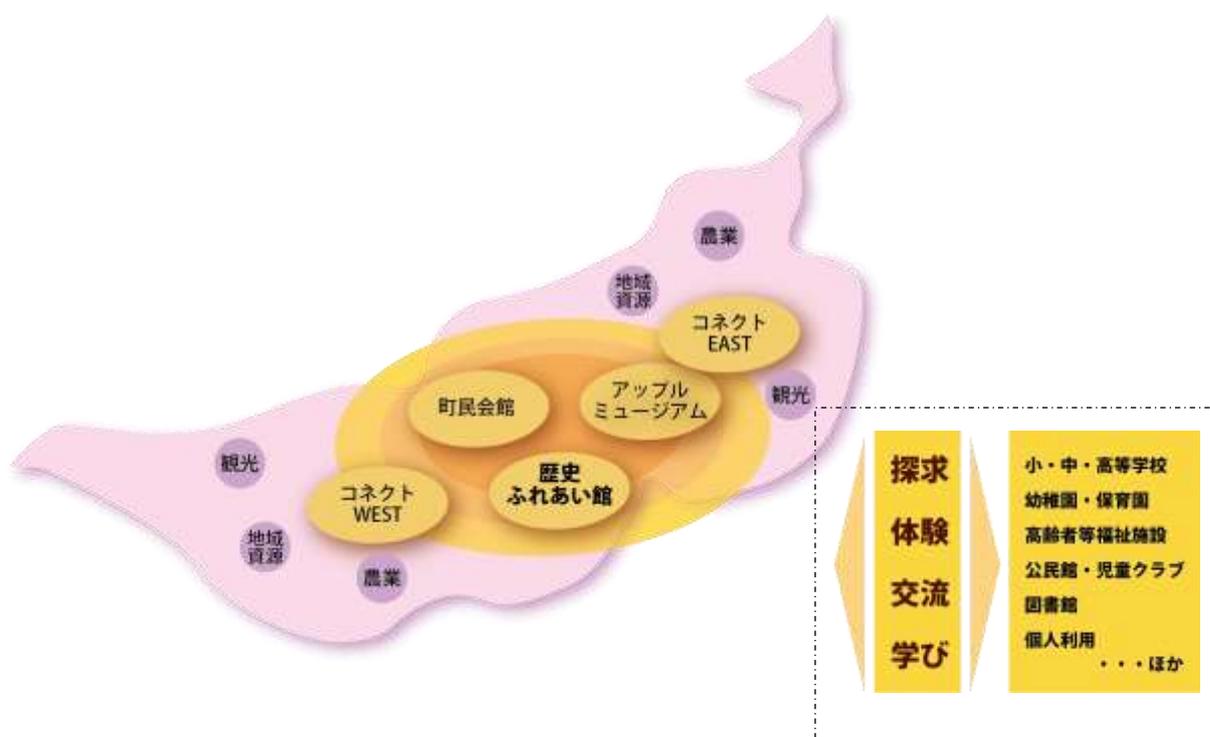


図4 交流と連携のイメージ

注 ※4: 連携を強化する対象としては、アップルミュージアム、町公民館(町民会館)、町内の小学校・中学校・高等学校、いっぴなコネクト EAST、いっぴなコネクト WEST、町の社会福祉協議会、その他観光施設等が対象となる

<留意点>

- ・ 来館利用 (学校利用/団体利用/個人利用)
- ・ 出前講座 (学芸員派遣/移動博物館)
- ・ 対話型鑑賞
- ・ 触覚を使った鑑賞 (さわれる展示)
- ・ 体験活動
- ・ 地域の資源と関わる (現地見学会ほか)
- ・ 総合学習支援 (教員研修ほか)
- ・ ファシリテーター・ボランティア養成
- ・ 野外展示 (山・川・用水・史跡・天然記念物等)
- ・ 遊びながら関心の持てる遊具設置

### 3-2 博物館活動計画の概要

- ◆**特別展**: 町の自然・歴史・文化を理解するための魅力あるテーマを設定し、学芸員による調査研究に住民の知見を加え、地域に根をもつ展示開催。
- ◆**企画展**: 町民が自主的に持ち込む企画やタイムリーな企画に、機会とスペースを提供し、親しみがもてる展示をサポートする。
- ◆**講座開催**: 町をテーマとした歴史講座の開催、展示会や催しに合わせた記念講演や招待講演、館の小ホールを活用したミニ学習会等、幅広いテーマで、気軽に参加できる多彩な講座を開催。
- ◆**見学会**: 現地に出向き、体験を通じた学びの機会を設ける。必要に応じ町のマイクロバスを利用し、地元住民に案内や解説を依頼するなど、住民間の交流にも役立つ見学会を行う。
- ◆**出前講座**: 出前講座の依頼に積極的に対応。町への興味関心を深め、様々な博物館活動に参加してもらうきっかけづくりに。
- ◆**学校支援等**: 町内の2つの小学校と1つの中学校、1つの県立高校に向けて、館の展示や資料等を学校教育の現場で活用していただく。資料の貸し出しや解説、現地案内などの様々な支援を行う。
- ◆**星空観望会**: 館の天体観測室を活用し、天文分野運営協力員の協力を得て定期的に星空観察会を催し、星空や宇宙への興味関心を引き出す。

## 第4章 付帯施設の環境整備と博物館機能の拡充

### 4-1 資料収集と収蔵・保存（3施設①、②、③の活用と課題）

町内の貴重な資料の収集・保管・保存は、町の博物館に期待される最も基本となる機能である。開発行為に伴う発掘調査により、今後も埋蔵文化財関連資料は確実に増えていくとともに、個人住宅の建て替えや土蔵解体等により、歴史的文書や資料などが廃棄・散逸してしまう危険が高まっている。町の歴史を物語る資料を保管する収蔵庫の確保と適切な資料保存は、急を要する課題である。

館内収蔵庫は建設時から収蔵スペースの不足が指摘され、開館後まもなく満杯になった。その後、①溝口会館や②旧牟礼西保育園のスペースを借りて資料等の分散保管がなされている。ただし、溝口会館もすでにほぼ満杯で、老朽化した木造の旧西保育園は、貴重な資料の保管場所として大きなリスクを抱えている。

このほど町の下水道事業統合計画により、令和9年（2027）度以降に廃止予定の③倉井処理場の建物を文化財保管庫に活用できる見通しが立った。これは町の歴史的な史資料の収蔵・保管計画を再考する、またとないチャンスである。



① 溝口会館



② 旧西保育園



③ 倉井処分場（処分場は令和9年度に廃止予定）

#### 4-2 収蔵品や歴史データ等の集約と情報提供

地道な機能であるが、公的博物館にとって、町の歴史や自然に関するデータの集約と情報提供は、館の存在意義に関わる重要な機能である。

適切に保存・保管された史資料は、活用されることにより新たな価値を生む。研究者や将来の人材育成のために、館の収蔵資料データや館外に存在する資料データを集約し、検索し活用するためのメタデータの整備も急務の課題である。既存のデータ群の整理と併せ、年々増えていくデータを追加し、管理・活用していくための恒常的な体制づくりが不可欠である。今後、専門職員による管理・運用方法の検討と制度設計を行い、ボランティアの力も借りながら、データの整理と保管、そして活用をはかることとしたい。

#### 4-3 調査研究と普及活動

当館は、町に関する様々な調査研究を行い、その研究成果を内外に発信する役割を担う。町の歴史・文化・自然等についての未解明の課題は多く、新たな発見は人々の興味をかき立て、地域に活力をもたらす資産となる。博物館が色あせない魅力を保ち続けるための鍵は、調査研究と情報発信機能の充実にある。

現在、当館はテーマを変えた特別展を毎年のように企画し、特別展開催に伴って得られた発見を図録等に掲載し紹介している。また、館の研究紀要を定期的に発行し、学術的な研究成果の発信に努めている。これらの自主的な活動とともに、町内外の研究者との連携、研究成果の寄稿依頼、あるいは町民による自主的な調査や学習支援等を促進し、なお一層新たな発見と情報の発信に努めてゆく計画である。



図5 恒常的な調査研究と情報発信の関係

#### 4-4 施設に関わる問題点と改修の方針

建設時から四半世紀近くを経て、館内設備は老朽化がすすんでいる。施設の長寿命化をはかりつつも、館の機能を維持するために適宜行う必要のある改修がある。改修は、町の財政も考慮しながら計画的にすすめる必要がある。以下に施設の現状と課題、改修方針を列記する。

##### 【館の看板・サイン】

館の建物は、利用者が多い町民会館やグラウンドに隣接し、町民の目に触れる機会は多い。しかし、玄関前まで足を運ばないと施設名がわからず、当施設が公共の博物館であることがわかりにくい現状である。ここに町の博物館があるということが伝わる、魅力的な看板・サインの設置が必要である。

##### 【玄関入り口付近の構造的な問題】

駐車場から玄関に入りづらい構造がある。冬季の屋根からの落雪を避けるために変則的な改修がなされた結果、館の玄関付近で見学者が進路選択にとまどってしまう形になっている。玄関の庇の下の空きスペースも生かされていない。また玄関入り口付近の床に水たまりが出来ており、凍結時の来館者の安全をはかるために、融雪剤を撒き、電熱シートを引くなどの後追い対策が行われている。

玄関前の草地の有効な活用も課題である。町民会館や子育て支援センターに隣接することから、親子で博物館に立ち寄りたくなる動機づけに役立つような簡単な遊具や印象的なモニュメントの設置が望まれる。

##### 【上履きスリッパへの履き替え方式の見直し】

現在、入館者は入り口で靴をぬぎ、スリッパに履き替える方式になっているが、スリッパはぬげやすく階段の上り下りの際に足元に不安を感じるという見学者の声が多くある。上履きへの履き替えには、館内を汚さないというメリットと、年配者や子ども等の身体的な弱者の安全面におけるデメリットもある。快適性と安全の両立のための改善を検討したい。

##### 【町に関する情報コーナーの設置】（展示計画とも関連する）

町を知りたい人が気軽に立ち寄れる情報コーナーの設置をはかる。1階小ホ

ール、あるいは玄関ホールや受付付近で、町の歴史が探訪できる場所や観光スポット、おすすめの散策コースや休憩・食事どころ等の紹介を行う。併せて、館内で来館者が個人のスマートフォンやタブレット PC などで情報にアクセスできるようにするため、Wi-Fi 環境の整備も検討する。

### 【エレベーター設備の改修】

開館当初から稼働している重要設備にエレベーターがある。しかし、設備の規格自体が古くなり、法定上なるべく早期に改修を行う必要が生じている。

### 【空調設備の改修】

暖房、冷房用に空調設備が備えられているが、機器やシステムが古く、維持管理コストが嵩んでいる。また、建物の構造や配管位置の制約等により、効率的な冷暖房ができていない箇所がある。貴重な歴史資料を保管するための条件として気密性は重要である。一方、昨今のコロナ禍でも指摘された来館者の健康と快適性確保のための一定程度の換気も必要で、その両立をはかる工夫が求められる。とくに3階部分は、大窓の展望が楽しめる一方で、空調と換気がうまく機能しない構造のため、夏季の高温など、季節によって快適な見学ができない状況を招いており、改善が必要である。

### 【2階のトイレスペース】

館には1階と2階にトイレが設置されているが、いくつかの理由があって現在2階のトイレは閉鎖している。2階トイレの必要性に関する検討とともに、そのスペースの新たな活用も視野に入れた検討が必要である。

### 【映像鑑賞コーナーの設置】（展示計画とも関連する）

町には昭和中期年代からの貴重な記録映像が多数残されている。町のビデオ編集委員会と協力し、過去の映像をまとめたデジタルアーカイブスの整備と、町民等が見たい映像を気軽に鑑賞できる環境の整備が望まれる。ハード面では、モニターシステムの入替えと、他の展示見学の邪魔にならずに利用できる鑑賞コーナーの設置が望まれる。

### 【3階の展望席の設置】（展示計画とも関連する）

3階は山々と町のすぐれた景観を眺望できる特別な場所である。眺望自体が、北信濃の美しく豊かな里山環境を知らせるシンボリックな役割をもった野外展示となる。現在は、腰かけ用の木製ボックスを簡易的に置いてあるだけだが、より快適なくつろぎスペースとなるよう、展望席の設置を計画する。

### 【3階地形模型の改修】（展示計画とも関連する）

合併前の旧村中心の模型はあるが、町全域を見渡すことができる地形模型がなく、それを観たいという声が多数寄せられている。町の自然、歴史、文化を理解するうえで、俯瞰的に町を眺めることができる地形模型の整備は急務である。

近年、白地の地形模型上にプロジェクションマッピング技術によって各種のテーマ映像を映し出す展示方法に多くの関心が寄せられている。ただし、機器の設置とデータ更新等のメンテナンスには相応の改修・更新費用を見込む必要がある。一方、従来のジオラマ風立体地形模型には、見学者の興味関心に応じて鑑賞できる自由さがあることや、解説者が見学者の属性に応じたテーマを設定することにより、固定化されない多目的な活用が出来るといった魅力と利点がある。さらに当館では3階の大窓から見える眺望を野外展示として活用していくため、自然光を入れた明るい環境下で地形を眺める場面が想定される。以上の理由から、当館においてはジオラマ風の地形模型のほうが比較的安価で使い勝手が良さそうである。現在の地形模型範囲を拡張する方針で、ジオラマ風の立体地形模型の展示を計画することとしたい。

### 【各階の階段スペースの有効活用】（展示計画とも関連する）

1階から2階、2階から3階への階段途中の踊り場や、2階から3階に至る階段側面の大きな白壁は、展示等にも活用できる。これらを各階の展示ストーリーの補完と、発展に役立てられる可能性がある。

## 第5章 歴史ふれあい館のリニューアルに向けて

---

### 5-1 設計方針

(1) リニューアルに伴う展示や施設の改修計画は、中・長期的観点からの「基本構想」に沿って検討した。2025年（令和7）に予定される町制20周年記念特別展開催に向けた改修は、改修計画全体の中の一部となる。

(2) スケジュール

2025年（令和7）特別展に向けた改修は、以下のスケジュールで計画する。

2023年（令和5）：3階地形模型の改修と基本設計

2024年（令和6）：（1階・）2階・3階展示の改修と翌年の特別展準備

2025年（令和7）：新しい展示による町制20周年記念特別展の開催

今後、財源の精査と改修の優先順位等について、政策的・技術的な最適化をはかり、改修を行う。

### 5-2 改修経費の概算（参考）

展示改修にかかる経費については、現時点で不確定要素が多いため、最近の近隣の展示施設整備工事の工事単価を参考に概算した。

参考としたのは、2022年（令和4）4月にオープンした妙高高原ビジターセンター展示工事である（資料：令和4年度 自然公園等整備工事予算単価 令和3年5月 環境省自然環境局自然環境整備課による）。

以下に概算の改修経費を示す。

<2階展示室と3階展示室の床面積297.0㎡の全面について改修した場合。ただし、地形模型の改修費は含めない>

#### A 工事費概算

74,250（千円）

（税） 7,420

工事費計 81,620（千円）

B 基本・実施設計と展示改修工事監理費：工事費の約10%

令和7年度に向けては、1階展示は既設の常設展示をほぼそのまま活かすこととし、2階・3階の展示については、全面改修ではなく、町を特徴づける展示の部分的な改修とする。改修部分の絞り込みは令和5年度に予定する。

## 資料編

### 資-1 計画の検討経過

令和4年4月の「基本構想」策定以降、基本計画はいろいろな歴史ふれあい館協議会の中で検討されてきた。その経過の概要を以下に示す。

表 令和4年度 いいづな歴史ふれあい館協議会 委員

	氏名(五十音順)	所属等	
委員	黒柳 賢次	歴史ふれあい館運営協力員(天文)	任期 令和3年4月27日 ～ 令和5年3月31日
委員	小林 重之	町教育委員会トータルコーディネーター	
委員	近藤 洋一	野尻湖ナウマンゾウ博物館長	
委員	中嶋 映男	飯綱町公民館長	
会長	中村 芳人	飯綱町文化財調査委員長	
委員	松木 洋二	古文書教室	
職務代理	宮本 久子	だんだりの会	
委員	矢野 玲子	町住民(飯綱町図書館)	
委員	山下 勲夫	町住民(アップルファームさみず)	令和3年5月26日 ～令和5年3月31日

事務局：飯綱町教育委員会 （教育長）馬島敦子（教育次長）高橋秀一  
（次長補佐兼生涯学習係長）若林宏行

歴史ふれあい館 （館長・学芸員）富樫 均（担当係長・学芸員）小山丈夫

#### ◆令和4年度 第1回いいづな歴史ふれあい館協議会

日時：2022年（令和4）5月18日

場所：いいづな歴史ふれあい館

<協議事項>

- (1)策定された「基本構想」について
- (2)令和4年度における「基本計画」の策定予定について
- (3)令和4年度の歴史ふれあい館の事業予定と特別展企画（案）について

- ◆令和4年度 第2回いいづな歴史ふれあい館協議会  
 日時：2022年（令和4）7月8日  
 場所：いいづな歴史ふれあい館  
 <協議事項>  
 (1) 令和3年度の歴史ふれあい館事業報告  
 (2) 令和4年度の特別展企画と夏休み子ども探検計画  
 (3) 「基本計画」策定に向けて（方針確認）
  
- ◆令和4年度 第3回いいづな歴史ふれあい館協議会  
 日時：2023年（令和5）3月10日  
 場所：いいづな歴史ふれあい館  
 <協議事項>  
 (1) 令和4年度特別展の報告とふりかえり  
 (2) 令和5年度の歴史ふれあい館事業計画  
 (3) 基本計画（案）の内容について 他

## 資-2 令和4年 特別展見学者へのアンケート調査結果

「いいづな歴史ふれあい館」のこれからについて、アンケート調査による意見集約を行った。調査結果を以下に示す。

- ・ **調査対象**：令和4年度いいづな歴史ふれあい館特別展「飯綱町と水の恵み」展を観覧に訪れた方々（子どもから大人まで）
- ・ **実施期間**：令和4年（2022）9月23日～11月27日まで  
 （回答の期限は11月30日までとした）
- ・ **調査方法**：特別展会期中の観覧者に個々にアンケート用紙を手渡し、期限までに回答の任意提出を依頼した

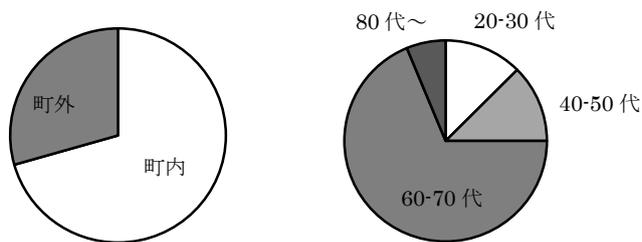
※ 補足：アンケートは、令和4年度の特別展内容についての感想を聞くアンケートとは別に、「館のこれからについて」の要望や意見を聞いたものである。回答するか否かは個々の自由とした。その場で答えにくい場合は、後日ファックスや手渡し等で回答していただくように依頼した。その結果、回答を寄せてくださったのは計17名であった。サンプル数は限られるが、歴史ふれあい館の今後について、ある程度関心をもつ方からの回答である。

## <アンケート調査結果のまとめ>

### ◆ 回答者数：17名

質問は以下のQ1～Q7の7問について行った。そのほかに、今後館の活動に協力をお願いできるかどうかについてもお聞きした。

#### Q1：回答者の属性について（N=17）



(1) お住まい

(2) 年代

#### Q2：いいづな歴史ふれあい館に欲しい展示について

- ・偉人の物語
- ・町全体の模型（3名）
- ・小学校のお宝展
- ・地形地質ジオラマ
- ・歴史（年代）毎の模型
- ・北国街道
- ・火山の展示
- ・触れる展示（2名）
- ・リンゴの展示

#### Q3：館内にあればよいと思うものについて

- ・館長に聞こうコーナー
- ・クイズコーナー
- ・喫茶コーナー（2名）
- ・触れる展示
- ・休憩スペース
- ・館のわかりやすい看板
- ・外のテラス
- ・町の特徴的な展示

#### Q4：館の活動として、あればよいと思うことについて

- ・体験会や見学会（複数）
- ・発掘体験
- ・農業体験
- ・公共交通の便
- ・親子参加体験（2名）
- ・展示解説者
- ・もっとイベントの案内広告を
- ・今でも十分やっていると思う

#### Q5：令和4年4月に公表した「基本構想」への認知度について

- ・知らなかった（7名）
- ・聞いたことある（2名）
- ・少し知っている（2名）
- ・よく知っている（0名）
- ・興味がない（0名）

#### Q6：館のこれから「基本計画」の作成に向けて望むこと

- ・キッズスペース、託児環境や「みつどんのお家※」との連携
- ・移住者への情報提供、町の再発見ができる場所に、案内人の育成を
- ・スリッパ履き替えをなくしてほしい（2名）
- ・三世代で楽しめる施設になってほしい、交流の場に
- ・失われていく資料をしっかりと収集・保管できる施設に
- ・スポーツ団体等との連携 ・より多くの展示を
- ・昔の生活の体験を

注) ※「みつどんのお家」：飯綱町子育て支援施設の名称

#### Q7:その他の意見や提案など

- ・がんばって下さい ・飯綱町検定をやってみては？
- ・「昔の遊び」を楽しむ機会を ・「飯綱八景」の制定を
- ・「飯綱町の祭」を取り上げてほしい ・歴史遺産として牟礼駅を文化財に
- ・飯綱町一帯の博物館-美術館構想を

☆ 最期に「今後いづな歴史ふれあい館の活動に協力をいただけるかどうか」という問いについては、9名の方から回答があり、6名の方が「協力する」と回答。3名の方は「協力は無理」もしくは「わからない」という回答だった。

#### <参考資料>

- ・『「いづな歴史ふれあい館のこれから」基本構想』  
いづな歴史ふれあい館 令和4年4月 .18p
- ・「令和4年度 自然公園等整備工事予算単価」  
環境省自然環境局自然環境整備課 令和3年5月.  
(<https://www.env.go.jp/content/900489181.pdf>)